

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	理工 学部	身分	准教授
氏名	寺本剛		
NAME	Tsuyoshi Teramoto		

1. 研究課題

(和文) 先端農業技術の技術哲学的・倫理的考察

(英文) Philosophical and ethical considerations on advanced agricultural technology

2. 研究期間

1年間 (2019 年度)

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word 程度）

(和文)

「精密農業」と呼ばれる先進的農業形態は、近年、ロボット技術や情報通信技術を組み込むことで、「スマート農業」と呼ばれる新しい段階へ移行しつつあり、その発展・普及は農業のあり方を大きく変えると予想される。このような現状認識を背景に、本研究では、技術哲学および環境倫理学の観点から、その変化の哲学的・倫理的意味と人間や社会への影響を考察した。具体的には、(1)精密農業と関連する先端農業技術の導入・普及の実情を文献調査、フィールド調査、インタビューなどから明らかにすること、(2) 精密農業と関連する先端農業技術の本質的特徴について技術哲学および環境倫理学の観点から分析すること、(3)以上の考察を踏まえ、精密農業のよりよいあり方の提言を行うこと、を目的とした。

実際の研究は、第一に、スマート農業による農業の省力化や自動化が農業従事者の熟練知の伝承にどのような影響を及ぼすか、第二に、先端農業技術が環境に配慮した農業に寄与することを前提とし、それを持続可能性の観点からいかに評価できるか、という点に焦点を当てて実施された。その際には、David Collingridge の漸進的な技術の概念と、環境倫理学者 Bryan Norton の持続可能性概念を組み込んで構築した評価の枠組みを利用した。これらの研究成果は国内外の学会において口頭発表した。

(英文)

The advanced agricultural approach called "precision agriculture" is shifting to a new stage called "smart agriculture" by incorporating robot technology and information communication technology. Its development and diffusion are expected to change the way of agriculture. This study examined the philosophical and ethical meanings of the changes and their impact on humans and society from the viewpoints of philosophy of technology and environmental ethics.